

ニュージーランド滞在の記録



期 間

2008年9月6日(土)~9月22日(月)

ニュージーランド全図と訪問先



【行程】

9月6日(土) 曇

愛妻号で家を出発、17時に松江駅から空港バスに乗り換え、出雲空港で夕食を済ませる。羽田空港から浜松町へ。東京駅からJR豊田行きに乗り、武蔵境駅に着いたのは22時半頃だった。息子の新居には初めての訪問だった。

9月7日(日) 曇

11時に武蔵境駅を出発し、荻窪駅で娘夫妻と落ち合う。4人で食事会をしたが話が弾み、13時の出発まであつという間の時間だった。

上野からスカイライナーに乗り成田第2ターミナルへ。まずは10万円分をニュージーランドドルへ換金した。送っておいた荷物を受け取り、搭乗手続きをする。26kgで重量オーバーとのことで、本を2kg分移し変えた。出国審査をしてシャトルに乗り搭乗口へ行く。ニュージーランド航空は予定の18:15に日本を離陸した。窓側で少し翼がかかるが、隣は空席でゆったりと過ごせた。映画「砂時計」を見て寝る。

9月8日(月) 雨

現地時間の朝6時に起き、朝食を食べる。飛行時間10時間45分で8時にオークランド空港へ着陸。天気は雨、気温15度の寒い中でSkyBusを待つ。SkyTowerへの入り口で降り、重い荷物を引っぱって坂を上がる。4年前の記憶を元にConvention centreの入り口が見つかったので、国際会議eFest2008の会場と表示された4階へ上がる。たくさんの参加者がコーヒブレイクをしていた。受付を済ませ、間もなくサラジェーンさんと大屋先生と落ち合う。SkyCityホテルに荷物を預けた後、夕方までeFestの発表を聞いた。



夜はサラジェーンさん、大屋先生、Wintecの女性スタッフ2人とともにタイ料理の夕食。9時にホテルへ戻り、長い1日が終わった。

9月9日(火) 曇

朝食はホテルのレストランでバイキングをとった。9時からeFestの2日目に参加する。午前中は私一人での聴講となった。だいたいの雰囲気はつかめ、明日の発表に向けて準備を整えることができた。Skypeのようなものを使い、遠隔での発表がシドニー、ニューヨークなどか



らあった。発表内容は構想段階のものが多く、評価データや実演が無いのは物足りない気がした。無線 LAN でのインターネット接続が無料ででき、日本とのメール連絡をすることができた。

17時まで発表を聞き、皆で1階へ降りて飲み会に入る。だんだん仲間が増えて8人になった。そのままのメンバーで今度は SkyTower のレストランに入り夕食会、私はステーキを食べた。ウェリントンとパラパラウムから来た2人の女性と話す。夏のタラナキ山とルアペフ山に登ったと言っていた。この時は \$25 くらいで割り勘する。ホテルに戻った後、明日の発表の練習をした。

9月10日(水) 晴

朝起きると今日は晴れて、ホテルの窓からオークランドの湾が良く見える。チェックアウトを済ませ、荷物を預けて会場へ向かう。今日は私の発表日、発表会場は Room1 で、事前にパソコンの接続をチェックしておいた。11時からいよいよ発表開始、40分間にわたり発表資料を使ってプレゼンテーションを行なった。準備・練習をしていたのでスムーズに発表ができた。インターネットに接続し松江高専のサーバにアクセスしてデモンストレーションも行なった。発表後、いくつかの質問を受けた。実際にアクセスしてシステムを見たいとの女性には、URL を示す名刺を渡しておいた。サラジェーンさんの評価はすこぶる良かった。発表者には記念品として“GurnFields”のワインが座長から渡された。



昼食後、4年ぶりにオークランドの街を散策したが、港は変わらず美しく、前に見学したことのある国立海洋博物館があった。パナマ船籍の巨大なフェリーが停泊していた。前回宿泊したスタンフォードプラザ・ホテルは、より高く改築されていた。

15時に eFest を終了し、サラジェーンさんとスカイタワーを観光し、バンジージャンプする若い女性を見た。展望台からは、前回観光したイーデン山や、オークランド大学が良く見え懐かしかった。16時にサラジェーンさんの車で出発、途中でペルシャ絨毯の店に寄った。ご主人の趣味だそう。高速道路を走り、19時にハミルトン市に到着、Venture Suites のホテルに入った。部屋は広くて清潔で快適そう。近くのスーパーで食べ物を買ってホテルで夕食とした。

9月11日(木) 曇

Venture Suites ホテルの朝食はパン、果物、ヨーグルト、各種飲み物のバイキングで肉類はない。サラジェーンさんが 8:10 に車で迎えに来てくれた。Wintec の Hub へ入ると、約 10 人のスタッフを次々紹介される。専



用の広い机を貸してもらえることになった。パソコンでネットにアクセスもでき申し分ない。日本からのメールをすぐにチェックする。昼食も Hub の中でできるので便利だ。ここで、語学留学で来た学生 10 人とはじめて会う。週末にロトルアとタウポに 5 人ずつに分かれて観光をしたそうだ。大谷君と重道君はタウポでワイカト川の 45m バンジージャンプをしたとのこと。来海さんは食事が合わないところぼしていた。

午後に構内をビデオ撮りする。Hub には 2 フロアーの広大な図書スペースがある。読書コーナー、談話コーナー、コンピュータスペース、食堂兼休憩室などがある。本部との間は広い中庭となり、ぐるりと様々な校舎で囲まれている。敷地の広さとしては松江高専と同じぐらいか。

17 時に仕事は終了し、サラジェーンさんに日本食材のスーパーへ連れて行ってもらおう。インスタントラーメン、豆腐、しょうゆ、キムチを買い、ホテルへ帰って食べた。米は買ったが電子レンジでの作り方がわからずサラジェーンさんにあげた。食事後は荷造りに忙しかった。

9月12日(金) 晴

朝食後、チェックアウトをして荷物を預ける。8 時過ぎにホテルから歩き、約 10 分で Wintec へ到着した。メールを見ると専攻科の景山君と祖田君の学修レポートが送られてきており、最優先でチェックをしコメントを返却した。出国後初めて家族へのメール連絡も行なった。昼は Hub でカレーを食べた後、語学研修棟に移動し、10 人の留学生と懇談をした。日高君は家族となじんで楽しそうだった。週末は大谷君、錦織君などと一緒に家族に連れられオークランドに遊びに行く予定とのこと。来海さんは弁当を断って今日から外食とのこと。家族との交流が少なく話し相手が少ないようだ。重道君と森脇君は用事があるといって先に帰っていった。子供のいるホームステイ先は気がまぎれるようだが、子供は字が読めない、食事の準備を手伝わされる、といったところが特徴とのこと。

14 時に学校を出てホテルで荷造りをする。タクシーを呼んでハミルトン空港へ。30 分で \$45 もかかった。空港使用料は \$5 払わされた。飛行機は 100 人乗り程度のプロペラ機でアテンダントは 2 人。窓には一面に牧場が広がる。海に出るとウェリントンの上空を飛び、クック海峡を越えていよいよ南島へ。Southern Alps の白い峰々が続く。そして緑が一面に広がるとクライストチャーチへ。シャトルバスには 4 人が乗り、中心地のスクエアまで 20 分で \$20 だった。ホテルはスクエア・バス停のまん前で正面に大聖堂の見える絶好地だ。ホテルから 5 分のところにスシ屋があったので、久しぶりにサシミとスシを食べる。街を散策すると、南極探検隊スコットの銅像の近くには美しいエイボン川が流れていた。

9月13日(土) 曇後晴

Camelot Square ホテルの朝食は果物、飲み物中心で肉類なしの \$14 だった。SkiCity バスは多くの乗客を乗せて 7:40 にクライストチャーチを出発した。長岡さんという日本人ガイドがついた。郊外に出ると広大なタスマン平野が広がる。はるか地平線にサザンアルプスの白い峰が連なる。一面の緑には羊、牛の

群れが続く。所々で馬、鹿、アルパカも群れも見られる。それにしても、羊は頭を下げてひたすら草を食べている光景は不思議だ。もっと互いにおしゃべりするとか、人生を語ったりできないのだろうか。つまらない人生と察する。その点、子羊たちはじゃれあって遊ぶ光景が見られて気持ちがほっとする。

9:30 にアッシュバートンに着き休憩を取る。ここでマウントクックの絵葉書を買った。羊泥棒マッケンジーの話*1 を聞きながら 11:20 にテカポ湖に到着し、湖を背景にバウンダリー犬の像、善き羊飼いの教会など写真撮影する。12:00 には青の美しいパタキ湖でマウントクックを背景に撮影した。マウントクック空港でフライトをする客が降りた。セスナでタスマン氷河に着陸し\$340、ヘリコプターで氷河に着陸し\$298 だそうだ。私にとっては興味なく、Tramping のほうが良い。

13 時ちょうどにマウントクック・ビレッジへ着き、YHA で降ろされた。若いおねえさんにチェックイン手続きをし、個室の部屋で荷物を整える。まずは偵察を兼ねて歩いてハーミテージホテルへ行き、昼食をする。2階のレストランはたくさんの観光客で賑わっていた。



ここから YHA まで歩いて 15 分、身支度を整え 14:45 から Tramping

を開始する。山々の美しさ、雄大さにしばしば立ち止まり、写真撮影が忙しい。セアリーターンズ分岐から少し入り、明日の偵察をする。その後分岐に戻り進むと 16:20 にケアポイントへ到着。ここからのマウントクックは頂上まで見えてすばらしい。風が冷たいので、ヤッケを着てしばらくその姿を鑑賞する。居合わせた白人の夫婦と写真を取り合う。フッカーバレーのルートも偵察しておいた。帰路では夕日にそまるマウントクックを何度も何度も振り返った。

ホテルには 18:30 に着く。売店には夕食の食べ物は売ってないため、ハーミテージホテルへ行き、ステーキ・ポテト・野菜サラダ+ビールで\$30 の夕食。ステーキはボリュームたっぷりだった。帰ったらシャワーをし、明日の荷物を整えて寝た。

*1 イギリス人のマッケンジーはニュージーランドに入植し、サザンアルプスの東側に開けた高原地帯を開拓した。雨が少なく荒地だったこの地を緑の牧場地帯としたことから、マッケンジー・カントリーと呼ばれるようになった。しかし彼は強欲で、羊の数を増やすために周囲の牧場から盗むことを考えた。羊を自分の牧場に連れ込むことは、夜になってから自分のバウンダリー犬にさせ、自分のアリバイを作るためその間町の酒場で飲んでいて。最初はうまくいったが、繰り返すうちに訴えられ裁判となった。裁判では無実を主張したが、承認と



して呼ばれたバウンダリー犬がシッポを振ってマッケンジーに駆け寄ったことからバ
レテ、タスマニア島に島流しとなった。この時のバウンダリー犬は、タウポ湖畔で銅
像となって観光客の人気となっている。

9月14日(日) 晴

戸締りをし、荷物を背負って
出発、まずハーミテージホテル
で朝食を摂る。コンチネンタル
は豪華なバイキングで\$16.5だっ
た。8:15に歩き出し8:50からシ
アリーターズのコースに入る。
急なルートでグングン高度を稼
ぐと、視界が一気に広がる。



10:15から雪がでてきたところで
スパッツを着けた時に、小屋泊
まりの女性に会う。そして深
い雪に覆われたシアリーターズ・ピークに10:55に到着。Mt.Sefton から
Mt.Cookに連なる3000mの山々が雄大だ。下には氷河湖とビレッジが手に取る
ようだ。下山時にピッケルにヘルメットの3人の若者にあつた。

フッカーバレー・コースには12:30から歩き出し、湖まで往復3時間の長い
コースだった。途中2箇所のつり橋があり、モレーンの上を歩く。長い木道の
ルートが気持ちよかった。フッカー湖には氷河の末端がせり出し、氷の塊が浮
いていた。ここからマウントクックは目の前だが、山頂は雲に覆われて見えな
かった。

ビレッジに戻り、ビジターセンターでEco-soapを買う。YHAでシャワーを
浴びてさっぱりし、夕食にハーミテージへ行く。今日も夜空は星がいっぱい、
南十字星がクッキリと見えた。食後にYHAへ戻り、インターネットのチケッ
ト(\$6で60分)を買って日本からのメールをチェックする。

9月15日(月) 晴

昨夜は疲れたせいかよく寝られた。7時に出発しハーミテージで朝食を摂る。
この日は日本人の団体客のため、ごはん・味噌汁・納豆・つけものといった日
本食を食べることができた。YHA
に戻り、荷物を整えてチェックア
ウト、フロントのおねえさんに挨拶をした。荷物をコインロッカー
に預け、9:15にレッドターンに向け出発する。つり橋をわたるとだ
んだん急登となり、50分の登りで
レッドターンズに到着。きれいな
池のある展望抜群の場所だった。
ここからの眺めは「富士山+穂高
岳+檜ヶ岳+奥又白池」といった



ところ。再びつり橋まで下山し、40分のブッシュウォークのコースを楽しむ。昼はハーミテージで済ませ、土産物を買ってYHAへ戻る。荷物を取り出し、クライストチャーチ行きのバスを待つ。帰りのバスは乗客が行きの半分くらいで空いていた。日本人は私を含め2人しかいないようで、英語のガイドしかなかった。羊泥棒マッケンジーとその愛犬の話をもた聞いた。帰路も羊・牛の連続で、カンタベリー平野の広大さに感嘆した。途中のラカイア川の橋は1.5kmもあった。

予定より早く7時にクライストチャーチに着いた。Camelot Square ホテルは広々と清潔で、窓からは正面に大聖堂が見えてすばらしい。外へ出て土産物の店で大好きなLOAD OF THE RINGSの本を買う。ニュージーランドの風景本も良い。次はすし屋の「まる」で握りずしを食べたがネタは新鮮、シャリは少し硬かった。夜の大聖堂*2周辺は美しく、しばし散歩し写真撮影をした。

*2 クライストチャーチの大聖堂は2011年の大地震で崩壊し、世界中に大きく報道された。私の訪問した3年後のことである。美しい建物だっただけに、涙を流して悲しんだ。

9月16日(火) 晴

昨夜は睡眠9時間でよく寝た。6:30にチェックアウトし、空港行きバスに乗る。定期バスは\$7と格安だった。7時に空港に着き、ハムサンドとコーヒーで朝食。飛行機からはサザン・アルプスの山並み、海を越えると雪のタラナキ山がまるで富士山だ。あのホビット村らしきワイカト溪谷を過ぎると、間もなくハミルトンで飛行時間は1時間45分。空港にはタクシーしかなく、ホテルまで\$45かかってしまった。ホテルで着替えをし、ひさしぶりにWintecへ入る。初めてHubや校舎のビデオ撮影をする。サラジェーンさんと明日からの予定の確認をする。サラさんをお願いして再び日本食材スーパーへ行き、ラーメン・うどん・豆腐を手に入れる。ホテルで食べながらeFest講演記念品のワインを飲んだ。

9月17日(水) 曇

忙しい1日だった。9:15から12:00までe-Learningの授業を参観した。Lan Schulz先生によるTourism classの授業だった。Wintecの学生は7人のみだったが、Schulz先生はオーストラリアとカナダにも受講生がいるようで、Moodleを使って同時に課題のチェックとメールによるアドバイスをしていた。いわゆるDistance Learningである。7人の学生は与えられた質問フォーマットに対し、Googleを使って「アメリカにおける旅行」に関する情報を調べ、答を記入して提出する。先生は提出内容をチェックして返し、正解であれば学生は次のステージへ進む。分からないことがあれば、先生にその場で質問してアドバイスを受ける。この方法だと板書も教科書もいらぬが、学生は寝る暇はない。

14時から16時まで、Courseware Development Unitを訪問し、Manager



の Chris Wyborn 氏及びそのスタッフと情報交換した。ここでは Moodle のシステム管理をしているようだ。ただし、コンテンツを作るところではなく、デザインをして外部に発注する。iPod touch を e-learning 端末とするシステムの開発も行なっていた。私からは日本における e-Learning の実情を説明した。私の研究では 3D グラフィックスと PDA 端末を取り入れた e-Learning を開発していることを紹介した。お互いの研究テーマの接点がここにはありそうな気がした。

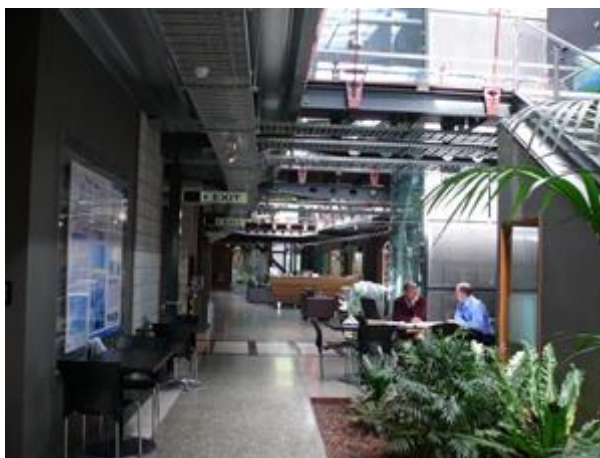
16:30 からサラジェーンさんと Wintec の Avalon Campus で行なわれた Research Seminar に参加した。このキャンパスはグラウンドや体育館もありかなり広そうだった。いわゆるサロンの集まりで酒を飲みながら、Wintec の Avalon Campus と City Campus のスタッフ 15 人くらいが集まって、研究内容の紹介をしていた。月に 2 回のペースだそうで、本日の講演は教員と学生間のコミュニケーションの在り方についてだった。

終了後、Wintec の近くのレストランでサラジェーンさんのご主人とも一緒にになり、夕食の招待を受けた。ラムの料理とビールをいただいた。ご主人はイランの出身だそうで、高校の先生で温厚なやさしい感じの方だった。

9月18日(木) 雨

今までにない雨の寒い日だった。この日は Wintec の要人と面会する。まずは 10 時から 30 分間、CEO の Mark Flowers 氏と会う。1 ヶ月前に松江高専へ来られて会っている。Wintec での活動のことをいろいろと聞かれた。昨日の体験を話題に活動状況を説明した。また、今後は情報系を中心とする専攻科生の技術研修も考えられることを意見として述べておいた。松江のおみやげに地酒（やまたのおろち）をさしあげておいた。

11 時から 12 時まで Business Development Unit の Nic Greene 氏に連れて行ってもらい、学外の Waikato Information Park を見学することができた。松江で言えばソフトビジネスパークにあたる場所で、産官学連携で研究開発をするところであった。興味を引いたのは、牧場の羊・牛の管理を IC タグと携帯端末（PDA, 携帯電話）を使って行なうシステムであった。センサーによるデータはデータベース



で管理する。家畜のコントロールのため、風速・風向計データ、牧場に配置したスピーカによる音も使っていた。パンフレットによると 30 社くらいの会社が Park に入って活動しているようであった。

14 時から 15 時まで、学部長の Merran Davis-Havill 氏と懇談した。彼女は日本から来た私に対し、矢継ぎ早に質問をしてきた。日本での e-Learning の実情について、カリキュラムについて、学校運営の予算獲得について、スタッフの仕事ぶりについて、等々。あっという間に 1 時間たち、こちらから質問する時間が少なかったのは残念。

Wintec のスタッフ同様 17時に仕事を終了し、ホテルに戻る。日本へのお土産を買うため、初めてシティセンターへ行くことにする。道を迷ってしまい、着いたのは 18時過ぎになったが、店は全て閉まっていた。空いているのはレストランと食品スーパーそれと不思議なことに散髪屋のみ。買物は昼間のうちにやっておかないと手に入らない事がわかった。

9月19日(金) 晴

今日は Wintec 最後の日である。9:15 から mini eFest が C201 会議室で行なわれた。私の発表では無線 LAN でインターネットに接続し、松江高専のサーバに接続して私のシステムのデモを行なう。前日のネットワークの設定は、セキュリティの関係でネットワーク管理スタッフにお願いしたが、事前にやっておいたお陰で今日はスムーズにできた。私の発表の時に、2年前に来日した John Clayton 氏がアメリカでの国際会議から帰ってきたばかりで駆けつけ、聞きに来てくれた。私の 40 分の発表に対して大いに興味を持ってくれた。彼は Wintec の Emerging Technologies Centre の Manager であり、今後の共同研究は彼の協力が不可欠である。私の Eco-system にも深い関心を持ってくれ、彼の Moodle 技術との学生を含むコラボレーションが今後の方向であると話してくれた。また彼は、来年に再来日したいと話していた。

15時から16時まで、学生たちのための Farewell party が行なわれた。ファミリーを含めると 30人以上集まっていた。学生たちは1人ずつ英語のスピーチを行い、ファミリーたちからも別れの言葉をもらい、学校からは記念品をもらった。私も予定外で記念品をもらい、お礼のスピーチを5分ほど行なった。

身の回りの片付けを済ませ、16:30に図書館のスタッフたちにお別れをして Wintec を後にした。サラジェーンさんと学校近くのカフェに行き、Clayton 氏と女性3人、イングランドの夫妻、スコットランドの Adam McMillan 氏を加え9人で酒を飲みながらおしゃべり。その後にサラさん、Adam McMillan 氏と高級なレストランへ行き、Wintec 代表の夫妻から夕食の招待を受けた。おいしいステーキとワインの料理だった。ホテル帰着は 21:30 になった。

9月20日(土) 晴

今日はサラジェーンさん主催のミニ旅行の日である。9:30に車で迎えに来てもらう。まずはお土産の店へ行き、ニュージーランドの焼き物とチョコレート類を買う。そしてワイカト川の散策。国内最大の川と言われるだけあり、水量が豊富である。深くて流れが速く渦巻きもできて泳ぐのは危険とのこと。魚は汚れに強い鯉が生息しているらしい。多くの水鳥はダック。そしてハミルトン市の中心地 Garden Place、Hamilton Central Plaza と地下のモールを歩く。このあたりは都会風だ。

ここから自宅へ連れて行ってもらい、ご主人と再会し紅茶をいた



だく。広くてりっぱな家で、庭も広々としていた。樹齢 30 年の木、桜やモミジもあった。芝生では黒のヨークシャーテリアが遊び、将来はプールも作るとのこと。二人の娘さんはメルボルンとウェリントンに住んでいるようだ。

ここから 40km 先の Mt.Pirongia へ行くことにする。山麓のレストランでの昼食はリゾット、シャケ、Flat Coffee。ブッシュウォークのコースは大木、シダ、溪谷の 30 分コース。大木と Fern (シダ : NZ のシンボル) で覆われていた。

再び町へ戻り、コーヒープレイクの後にご主人に Hamilton 湖へ連れて行ってもらふ。この国独特の鳥 Pukeko の写真をとった。湖にはこれを含め 6 種類の鳥と 4 種類の魚が生息している。川とはつながっておらず、水の透明度はあまり高くない。ジョギング、ウォーキングのコースが整い、市民の憩いの場である。1 周すると 40 分かかかるらしい。次に案内されたのはガーデンプレイス。日本・中国・イギリス・アメリカ・イタリアの庭園があった。ワイカト川の畔で、センターの建物ではマオリの踊りがにぎやかだった。



再び自宅へ帰り、私の写真を披露し扇子をご主人にプレゼントする。夜が訪れると庭から南十字星を鑑賞させてもらふ。そしてサラジェーンさん手作りの夕食をキャンドルの下でいただく。スープ、キノコのシチュー、ご飯、ニンジン添えにビールだった。そしてお別れの抱擁をいただいた。ホテルに着いたのは 9 時、一日中付き合っていたいただいたご夫妻に深く感謝したい。明日早朝の出発に備えた荷造りは 22 時までかかった。

9 月 21 日(日) 晴帰国後雨

今日は帰国の日。早朝 3 時過ぎに起床する。長期に滞在した Venture Suites のチェックアウトを済ませ、Wintec にて全員集合する。夜明け前の南十字星が大きく見える。Dennis 夫妻のシャトルバスで夜道を走り、夜の明けた 6 時にオークランド空港に到着する。航空機のチェックインは重道君の荷物が 33kg で引っぱり長引く。出国審査はスムーズで、中に入って各自で朝食、ショッピングをする。出発ゲートで全員のビデオインタビュー。10 人ともニュージーランドの生活を楽しみ、有意義だったようだ。予定より遅れて 9 時に出発、「インディジョーンズ」「それでも私はしていない」「砂時計」の映画を見た。成田着 16:40 で入国審査を済ませ、荷物発送依頼、換金をする。京成に乗り、上野から雨の中を歩きホテルには 20 時に着いた。久しぶりに純和食を味わい、日本の新聞・ニュースにかじりついた。



9 月 22 日(月) 曇

朝はゆっくりし 8:40 にホテルを出発する。御徒町から羽田まで、ニュージーランドにはない日本のラッシュを味わ

った。羽田を11時に発ち、出雲空港には12:25、マロー先生、飯島先生と父兄たちの歓迎を受けた。ここで解散し、飯島先生の車で松江駅まで送ってもらう。バスに乗り、久々の我が家へ14時に帰る。娘が東京から帰省していて、ロビンと一緒に歓迎を受けた。こうして17日間に渉るニュージーランドへの旅は終わった。

【雑感】

1. 生活環境

ニュージーランドの3月の気温は最高23℃、最低15℃程度で湿度が低くすごしやすい。日本と逆の早春なので、セーターを着ていてちょうど良いくらい。とても天気が良く、時々雨が降るが少量ですぐに上る。山岳地帯はまだ残雪に覆われる。

昨年行ったヨーロッパと根本的に違うのは安全なこと。どこにいても安心して居心地良く過ごせる。イタリアやフランスにいとスリに狙われていないか、いつもビクビクしていなくてはならなかった。ニュージーランドではその心配は全くというほどなかった。

一軒家の家は平屋で広く、庭も芝生でたっぷり広い。全体に豊かな感じだ。ただし日本と違いウォシュレットがまったくないのが不自由で、サニーナが欠かせなかった。

人口は400万人、そのうちの3分の1がオークランドに集中する。第2位はウェリントンで40万人、第3位がクライストチャーチで30万人くらいか。反対に、羊の数は15倍の6000万頭とのこと。

ニュージーランドで生活していると、女性の活躍が目立つ。Wintecでは図書館長のサラジェーンさんを始め10名のスタッフのほとんどが40代~50代の女性であった。学部長のDavis-Havill氏はまだ若手の女性で、相当なやり手であると感じた。国際会議eFestの発表者Jane Hornibrook氏、Leigh Blackall氏など、多くの女性の活躍が目立った。この国の指導者は女性のクラーク首相である。女性の活躍の理由がなぜかは日本人にとって興味深いところである。

仕事は9時から17時まで、過ぎると町の店はほとんどがとじてしまう。仕事が終わると皆自宅へ帰るか、仲間で街カフェへ繰り出し飲んでおしゃべりする。1時間以上飲んだ後に、レストランでディナーを食べながらおしゃべり。そうしていると時間は夜8時を過ぎて帰宅。これが一般的な生活スタイルか。日本とちがって仕事は効率よく終え、生活をエンジョイするのが常識のようだ。サラジェーンさんのご主人は、早く帰って庭のプール作りをするのが楽しみだそ



うだ。

ニュージーランドはアウトドアの遊びの天国。美しい大自然に恵まれ、カヌー、ジェットボート、ラフティング、ハイキング、ヨット、スカイダイビング、バンジージャンプなど遊びには事欠かない。ジェットボートはどんな溪谷でも川下りができるようニュージーランド人が発明したとのこと。屋外の遊びを楽しむことがニュージーランド生活のポイントだ。

エネルギー政策は特徴的である。地球温暖化に配慮し、極力自然エネルギーを使う。水力 50%、地熱発電、風力発電などで 20%、火力は 30%で原子力は絶対に使わない。日本と違い農業国であるが、エネルギー政策に対しニュージーランドから学ぶべき点は多い。

牧畜はコストパフォーマンスにより羊から牛への移行が進んでいる。その影響で、水環境がリン成分の増加により悪化してきている。牛の糞が雨により川や湖に流れ込むためだ。国内最大のワイカト川では、水質悪化によりトラウトは住めなくなり、汚れに強い鯉しかいないとのこと。ロトルアの湖の汚れはさらに進んでいるらしい。環境立国ニュージーランドでも、環境保全は大きな課題のようだ。

2. 交通

交通手段は車がメインのようで、高速道路が発達し無料で走れる。オークランド市内は混むが、郊外へ出るとほとんど車はおらず、100km 以上でとばせる。一般道でも郊外へ出ると道が真っ直ぐのため 100km ですっ飛ばす。車は圧倒的に日本車で、中古車を大量に輸入しているようだ。ただし、町に入ると 50km の制限がかかりスピードをダウンする。町を抜けると再び 100km の標識になり、すっ飛ばし始める。



鉄道はあるが便が少なく、一般には使われていないようだった。路面電車はあるが、地下鉄はオークランドにもない。北島と南島に別れるため、飛行機は便数が多い。国内便は 100 人乗り程度のプロペラ機が多いようだ。ハミルトン空港では空港利用税を\$5 とられた。

3. 交通費

①航空運賃

学校より JTB 依頼により、出雲～羽田が 15,600 円、成田～オークランドの往復で 99,000 円。燃油サーチャージ 40600 円等を入れて合計 172,860 円だった。

ハミルトン～クライストチャーチ往復便は\$220 (片道 9,134 円)

②バス、タクシー

タクシーはハミルトンのホテル～空港間が 30 分で\$45 と高い。シャトルバスはクライストチャーチ空港～スクエアが\$20、定期バスだと\$7 と安い。

クライストチャーチ～マウントクック往復は 12,040 円 (休日) +9,217 円(平

日)。片道 5 時間かかる。

鉄道は発達しておらず、地下鉄もなく使う機会がなかった。

4. 生活費

①食事代

食事代は日本と同程度で、Wintec での昼食は約 400 円。夕食はホテルのレストランで食べると 1600 円程度かかるが、ボリュームがある。ホテルの朝食はコンチネンタルで、約 1200 円で食べ放題。マウントクックでの行動食は、朝食の余りを利用した。コーヒーは Flat White が\$3.5、カプチーノが\$4、ビールは1杯\$5。

②ホテル代

オークランド SkyCity が\$335.83 (1泊 13,500 円)、ハミルトン Venture Swites は 5泊で\$815 (1泊 8500 円ぐらい)、クライストチャーチ Camelot Central Square は 9,542 円(平日)+9,713 円(休日)、マウントクックビレッジ Mt.Cook YHA が 2泊で\$146 (1泊 6,020 円)。

内容を考えると、日本より値段はかなり安い。SkyCity はオークランドの中心で最高級のホテル。クライストチャーチの大聖堂前のホテルが 1 万円以下で泊れるのは驚きだ。あれだけの広さ、便利さ、眺めのよさを考えると日本だと 1 万 5 千円以上はかかるだろう。ネットで探しあてたのも良かったかもしれない。世界遺産の中にある YHA も、キッチンとした個室でベッドが 2 つあった。

朝食はパン、ヨーグルト、果物。飲み物はコーヒー、ジュースに牛乳もあるが、野菜物はない。ただし、ビレッジのハーミテージホテルの朝食では日本食を含むすべてがあった。ホテルには寝巻き、スリッパと歯ブラシはないので要注意。

③為替レート

日によって変動するが 1 ニュージーランドドルが 72 円程度。4 年前に訪れた時は 80 円だったので、円は高くなっているようだ。ただし、成田で換金すると 1\$NZ が ¥80 で計算されてかなり損する。再換金すると 1\$NZ が ¥60 となりダブルの損。現金処理はなるべく押さえ、カード処理の方がよい。

5. 海外旅行の楽しさ

今回は 17 日間と今までの中では長期に渡った。ニュージーランドは 2 回目になるが。旅人ではなくこの国の生活の中にどっぷりと使うという、今までにない体験をした。Wintec ではたくさんの部署のスタッフの方々と、直に仕事の話をした。就業後はプライベートな場でたくさんの人を紹介され、一緒に食事をしながら話をした。朝から晩まで英語だけの世界にいるのはかなりきついが、今まで気づかなかったことを体で感じる事ができた。Wintec (ワイカト工科大学) のサラジェーン夫妻をはじめ、多くの方に暖かく人情深く接してもらったことが強い印象として残る。どの方からも親身になって、私の仕事や生活について協力してもらったことに、深く感謝をしたい。

—おわり—